

教育目標		教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a]	評価値 <定時>	評価値 <通信>	評価値 [b]	達成指数 [b/a] (昨年)	評価 (昨年)	結果と課題の記述	評価 (昨年)	コメント	次年度への改善策
調和のとれた感性豊かな人間の育成	主体的に学ぶ意欲の育成	基礎学力の定着		<p>わかる学習指導の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業の大切さを理解させる ○少人数指導・授業の工夫 ○単位修得率の向上 <p>教員の指導力の向上・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業公開・見学と授業研究の実施 ○10の視点を取り入れた授業の工夫 	教務	全講座の平均出席率(定時)	80%	85.0%	—	85.0%	106.3	A	<p>様々な要因で長期欠席が続く生徒が多いが、担任を中心に登校を促す働きかけを行った結果、昨年度よりもわずかではあるが出席率は改善している。引き続き、担任・生徒支援委員会・学年次会等と連携して状況把握につとめ、授業への出席を促していきたい。</p> <p>本校が少人数指導であることをよく理解し、それを動機として入学してくる生徒が多い。そのため、「そう思う」、「大体そう思う（大体良い）」を合わせて88%と、3年連続で目標値を超えている。特に55%が「そう思う」と答えていることから、生徒に支持された本校の特色として、指導の方法について工夫を重ねながら、今後も充実を図りたい。</p> <p>目標値は達成された。90%をこえる生徒がスクーリングは学習を進めるのに役立ち、レポートでの学習内容に満足していると回答している。ただ、学習活動ができていない生徒が4割おり、通信制課程で学ぶ多様な生徒に対応したより工夫を凝らした講義内容とレポート形式の検討とその実践が求められる。</p> <p>【定時制】出席率を向上させることが、単位修得率の向上につながると考えている。今後も授業への出席を促す働きかけを継続していきたい。</p> <p>【通信制】3年連続で目標値は下回ったものの、昨年度より4%ほど高い単位修得率となった。新教育課程となり各教科(講座)のレポート検討や工夫がなされた結果と推測される。引き続き、レポートやスクーリング内容の十分な検討・改善を図り、生徒がより一層自学自習を進め、単位修得につなげる必要がある。</p>	B	<p>・昨年の互見授業に関する評価指数は、授業公開と授業見学の回数であったが、今年は回数ではなく、もっと踏み込んだ内容にされたように思う。今後も互見授業を大事にし、生徒にとって分かりやすい授業を充実させてほしい。</p> <p>・達成指数が100を超えているものがある。目標値を変える必要がある。</p> <p>・通信制ではスクーリングやレポート添削の内容に満足している生徒の割合が90%を超えており、目標が達成された。ただ、学習活動ができていない生徒が4割おり、通信制課程で学ぶ多様な生徒に対応した、より工夫を凝らした講義内容とレポート形式を検討し、その実践方法を考えていきたい。</p> <p>・授業公開旬間を設定することで個々の教員の授業力を高め、ひいては生徒の学力向上につながる目的で教務主導で実施している。個々の教員の授業改善に効果的な取り組みとするには、校内研修の一環として図書研修部との共催も考えられるだろう。いずれにしても被見学回数の均等化をはかったり、見学者・授業者から提出された「振り返りシート」を回覧等により全員が共有化するなど、授業力・指導力の向上につながるような取り組みをしていく必要がある。</p>	<p>・定時制の全講座平均出席率は昨年より改善している。また、単位を修得した生徒の割合は最終的には85%となったので、講座への出席率と単位修得率は関連があると考えられる。ルーム担任やコーディネーター、保護者等と連携を深めながら、引き続き講座への出席を促していきたい。</p>
							80%	+13.4	—	+13.4	89.5	B				
						少人数指導が自分に合っていると感じている生徒の割合(定時)	80%	88.3%	—	88.3%	110.3	A				
							80%	-2.1	—	-2.1	113.1	A				
						スクーリングやレポート添削の内容に満足している生徒の割合(通信)	80%	—	94.7%	94.7%	118.3	A				
							80%	—	+5.1	+5.1	112.0	A				
		単位を修得した生徒の割合	80%	79.9%	64.0%	71.5%	89.4	B								
			80%	-1.0	+4.1	+1.5	87.4	B								
		互見授業は授業改善に効果的だったとする教員の割合	80%	69.5%	69.5%	86.9	B	<p>「10の視点」を取り入れた授業を試みる機会として授業公開旬間を設定した。しかし、見学者・授業者から提出された「振り返りシート」を授業力向上に生かすことができなかったため、情報を共有し授業力・指導力の向上につながるような取り組みを考えたい。教員にとって「研修」は重要な職務の一つなので、継続して授業力の向上を図る機会として充実させたい。</p>	A							
			—	—	—	—	—									
			主体的に活動する意欲の育成	体育・文化的行事と生徒会活動の充実	生徒	行事や活動を楽しむことができたとする生徒の割合	70%	75.3%	78.7%	77.0%	110.0	A	<p>アンケート結果から生徒は各行事楽しむことができている。特に通信制生徒の評価値が上がり、定通一緒になって活動する意義があった。行事によっては事前にアンケートを実施し、生徒が参加しやすいように配慮しているが、生徒が主体となった行事や活動にしていくことは継続的な課題である。</p> <p>本年の目標値を達成することで、昨年同様の高い評価を維持することができた。2月の初めの時点で昨年度の配信数を超え、目標であった発信量の増加を実現できた。また、発信の量だけでなくより即時性があり詳しい内容のメールを発信できたことが、評価につながったものと考えられる。</p>	A	<p>・可能なものについては事前アンケートを実施し、生徒の希望する活動を提供し、意欲的な参加を促す。また生徒会を中心に、より生徒の主体的な活動になるように働きかけていく。参加した生徒の満足度も大切だが、参加者自体の数を増やすことにも着目していきたい。</p> <p>・メール配信の質・量共に維持して行くことはもちろん、配信利用の分掌に若干の偏りがあるので、各分掌に配信利意識喚起をするために定期的な広報をしていきたい。</p>	
							70%	-3.2	+7.3	+2.0	107.1	A				
様々な情報の提供 ○メール一斉配信システムの管理・運用	情報管理			提供されたメール情報を役に立つと感じている生徒の割合	70%	68.9%	75.0%	72.0%	102.8	A						
					70%	-8.4	+3.6	-2.4	106.3	A						

評価計画			自己評価						学校関係者評価											
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a]	評価値 <定時>	評価値 <通信>	評価値 [b]	達成指数 [b/a] (昨年)	評価 (昨年)	結果と課題の記述	評価 (昨年)	コメント	次年度への改善策					
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自然や文化を愛し、他の人を思いやる豊かな心の育成	自他を思いやり、他者の存在を認める豊かな心の育成	人権・同和教育の推進と人権が尊重される環境づくり ○自己理解、他者理解を通じた自尊感情を育む指導 ○人権に関する知識理解と人権感覚の育成 ○いじめの防止といじめを許さない雰囲気づくり	人権同和教育	自尊感情をもつとともに他者を認め合うことが大切だと考えている生徒の割合	70%	86.8%	88.4%	87.6%	125.2	A	昨年と少し設問内容を変更したので単純な比較はできないが、本年度も数ポイントではあるが上昇を続けた。少人数指導により、生徒一人ひとりに対して目配り、気配りできることが生徒の自尊感情を高めるのに効果をあげていると思われる。また、人権・同和教育やキャリア教育をとおして、自分や他人を見つめることができているのもよい結果をもたらしている。一方、アンケートには表れない欠席しがちな生徒の自尊感情を高めたり、生徒同士で高めていこうとする集団づくりが課題である。	A	・評価指標の殆どが、達成指数100を超えている。目標値を変える必要がある。	・指摘の通り、「自尊感情を持つ」、「いじめをしない」生徒の割合の目標値は100%にすべきであろう。 ・人間関係のトラブルなどで悩みを抱えている生徒も多いので、アンケートだけでなく、生徒の思いを把握する必要がある。 ・いじめを許さない学校づくりをするためには、生徒同士のつながりを持たせる活動を実施する必要がある。また、いじめや人権侵害が起こったときの相談窓口や対応を生徒に明確に示し、安全・安心な学校をPRする必要がある。					
					教育活動において、命や人権に関する学習が役立っていると考えている生徒の割合	70%	76.6%	82.4%	79.5%	113.5	A					年2回の人権・同和教育のLHRをはじめ、e-ネット安心講座、性教育などを通して、命や人権を尊重する教育活動を行った。振り返りシートなどの感想をみても、自分のこととしてとらえている記述も多く、目標値を上回る事ができた。ただ、通信制に比べて、定時制が低くなっているのは、通信制が自らの意志で受講しているのに対し、定時制は受け身になっていることがこの差に表れているのではないかと。ただ講義や講演を聴くだけでなく、積極的な参加を促す取り組みも必要である。				
					いかなることがあってもいじめをしないことにしている生徒の割合	90%	87.4%	95.9%	91.7%	101.9	A					定時制・通信制をあわせると目標値は達成できた。ただし定時制だけでみれば、90%を下回っている。「いじめに関するアンケート」を年2回（7月、2月）、記名式で実施し、実態把握に努めた。アンケートで「いじめをした」、「いじめを受けた」と回答した生徒から直接事情を聞き、必要に応じて該当生徒への指導を行った。しかし、心ない落書きやネットへの書き込みにより、傷つく生徒、人間関係のトラブルで登校できにくくなる生徒も少なくない。なおいっそういじめ防止の取り組み推進するとともに、よりよい人間関係をいかに築いていくかが課題である。				
					読書意欲の喚起と利用促進 ○図書整備・充実 ○明るくさわやかな環境づくり ○「図書館だより」の充実	図書研修	図書館を利用しやすいと感じている生徒の割合	70%	82.6%	96.6%	89.6%					128.0	A	昨年度より評価値がさらに7.8ポイント上昇し、目標値をはるかに上回った。図書館を静かに利用するマナーが定着しているためと思われる。今後も利用マナーの指導を継続していきたい。	A	・「図書館を利用しやすいか」というアンケートは意味のあるものだと思う。 ・図書館が利用しやすい環境で本が読みやすいということであればよいが、図書館を利用しやすいことと本を借りることは別物のように感じる。利用しやすいと感じている生徒の割合が高くなっていることは良い傾向である。
					生徒1人当たりの年間貸出冊数(定時)		10冊	8.8冊	—	8.8冊	88.0					B	昨年度より評価値がやや下がったが、本をよく借りる学年が卒業したためと図書館を利用しても借りない生徒がいるためと思う。今後、より多くの生徒に利用を促す工夫をしていきたい。			
					自ら考え行動し、自ら律する態度の育成	美しいものを美しいと感じる豊かな人間性の育成	規範意識の向上	全教職員によるルール・マナー指導の徹底 ○校舎内外のパトロールの実施 ○「あいさつ運動」の実施	生徒	挨拶ができ、ルールやマナーを守っていると自覚している生徒の割合	70%					81.6%	63.1%	72.4%	103.4	A
		ボランティア活動に参加している生徒の割合(定時)	80%	82.5%						—	82.5%	103.1	A	今年度から学校主体、あるいは学校を介したボランティアへの参加に対する評価は定時制生徒のみとした。LHRでの「クラスボランティア」や卒業生中心の「宍道駅にありがとうボランティア」などを企画した。また宍道町内の各種ボランティア、東日本大震災復興ボランティアなど様々な外部ボランティア参加への呼びかけをした。多くの生徒が活動の意義を理解しながら意欲的に活動した。これらの活動により地域や社会へ貢献する意識が高まっていると思われる。来年度も校内で企画すると共に、町内あるいは外部からの情報を得ながら積極的に取り組んでいきたい。						
		70%	+14.7	-3.2						+5.8	95.2	B								
		地域・社会への貢献意識の高揚	ボランティア活動の奨励 ○通学路、駅周辺の清掃活動等の実施	ボランティア活動に参加している生徒の割合(定時)			80%	82.5%	—	82.5%	103.1	A	今年度から学校主体、あるいは学校を介したボランティアへの参加に対する評価は定時制生徒のみとした。LHRでの「クラスボランティア」や卒業生中心の「宍道駅にありがとうボランティア」などを企画した。また宍道町内の各種ボランティア、東日本大震災復興ボランティアなど様々な外部ボランティア参加への呼びかけをした。多くの生徒が活動の意義を理解しながら意欲的に活動した。これらの活動により地域や社会へ貢献する意識が高まっていると思われる。来年度も校内で企画すると共に、町内あるいは外部からの情報を得ながら積極的に取り組んでいきたい。	A	・昨年までは、通信制生徒の評価値が低かったため、C評価だったが、今年度は定時制生徒のみの評価値でありA評価になっている。通信制生徒へのボランティア活動への呼びかけは今後も継続してほしいと思うが、評価の仕方については生徒の実態に応じた今年度のような評価方法でよいと思う。					
							60%	+3.9	(12.9)	+36.7	76.3	C								
							60%	+3.9	(12.9)	+36.7	76.3	C								

教育目標		評価計画			自己評価						学校関係者評価		次年度への改善策	
教育目標	教育目標達成のための指針	重点目標	目標達成のための方策	担当分掌	評価指標	目標値 [a]	評価値 <定時>	評価値 <通信>	評価値 [b]	達成指数 [b/a] (昨年)	評価 (昨年)	結果と課題の記述		評価 (昨年)
調和のとれた感性豊かな人間の育成	自ら考え行動し、自ら律する態度の育成	キャリア教育の推進と進路指導の充実	<p>系統的な進路指導と望ましい勤労観・職業観の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講演会や企業見学・インターンシップなどによる体験的学習の充実 キャリアカウンセリングプログラムを活用した指導の展開 	進路	進路学習や適切な進路指導を受けていると感じている生徒の割合	70%	75.2%	93.9%	84.5%	120.8	A	<p>宍道高校も5年目となり進路指導のあり方もある程度確立されてきた感がある。今年度も通信制の評価値がさらに向上した。しかし、定時制の中には学校生活への意識が低い生徒もいて進路指導をする上で苦慮している。なお、定時制の評価値には表れていないが、今年度実施した進路週間やステップアップウィークなどの進路に関する一斉指導についてはたいへん好評であった。次年度に向けてより多くの生徒が進路実現に至るために、より適切な指導を受ける機会を設けたいと考えている。</p> <p>進路週間として7月下旬に3日間、企業見学・インターンシップ・卒業予定生進路講座を実施し、一斉指導を行うことで学校全体の進路意識高揚を促した。また、8月上旬4日間のステップアップウィークを活用し卒業予定生対象の進学就職対策講座を実施した。これらはキャリアガイダンス（外部講師講演会、分野別・企業別ガイダンス等）や総合学習・LHRとともに、生徒のキャリアアップのために有意義な指導となった。次年度は5日間のステップアップウィークを活用し、生徒のキャリアアップを促したい。</p>	B	<p>・評価指標の殆どが達成指数100を超えている。目標値を変える必要がある。</p> <p>・進路未決定のまま卒業していく生徒に対して、引き続き情報提供することはよいことである。</p> <p>・高校時代、夢や目標が持たなくても社会人になって持つ場合もある。進路先が全員決まらず、曖昧なまま卒業する生徒がいたとしても目標値は100でもよいのではないかと考えている。</p> <p>・進路先を決定して卒業する生徒の割合について、結果として100を目指しているが、現実的な目標値については引き続き検討が必要である。低学年次からの継続的なキャリア教育をより効果的に進めることで、卒業時に進路未決定者が残らないよう指導していきたい。</p>
						70%	-2.7	+6.4	+1.8	118.2	A			
					企業見学やインターンシップ、外部講師による講演会は役立つと感じている生徒の割合	70%	78.3%	92.7%	85.5%	122.2	A			
						70%	+0.9	+14.0	+7.5	111.5	A			
					生徒・保護者への適切な進路情報の提供	70%	68.2%	92.7%	80.4%	114.9	A			
						70%	-1.3	+8.9	+3.8	109.5	A			
	個々の進路実現に重点を置いた支援	就職・進学など進路先を決定して卒業する生徒の割合	80%	98.4%	96.5%	97.5%	121.8	A						
			80%	+5.2	-1.8	+1.7	119.7	A						
	充実した学校生活を送るための心身の健康管理の推進	生徒の心身の健康の保持・増進	健康管理意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談活動の充実 「保健相談部だより」の発行およびメール一斉送信や掲示物などによる情報発信 健康教育講座の実施 	「保健相談部だより」、メール、掲示物などによる健康情報は、自分のからだや心のことを考える参考になると感じている生徒の割合	70%	58.6%	78.0%	68.3%	97.5	B	<p>数値による回答結果では、達成指数97.5と下がっているが、「高校保健ニュース」などの掲示物を生徒たちは関心をもってじっくり見たり読んだりしている。生徒たちの様子を見ていて、メールチェックをよく行っている。今の生徒たちにとってはメール一斉配信による時機をとらえての健康情報発信は非常に有効であることがわかる。「保健相談部だより」についてはクイズや食育領域、スクールカウンセラーの寄稿など内容、レイアウトなどに工夫を凝らしてきた。気にかけて見ている生徒は毎回、丁寧に目を通している。課題としては、情報を読まない生徒・見ない生徒たちの生活の中に、健康情報の取得をいかにして習慣化させ、定着させていくかである。今後、手立てを見出していけるよう考えていきたい。</p>	A	<p>・タイムリーに情報提供をすれば、生徒は関心を持つ。今後も機を逃さない情報提供を行ってほしい。</p> <p>・清掃にきちんと取り組む姿勢は、美化意識を育てる。こういうことが、松江の町にごみがなくきれいである土台になっているのかもしれない。よい取組である。</p>
						70%	-9.5	-2.9	-6.1	106.3	A			
			相談事業・相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールサポーター、教育相談員との連携 思春期保健に関する教職員研修の実施 生徒支援委員会との連携 	学校では、先生のほかにスクールサポーターや教育相談員の人たちが悩みや心身の健康について誠意をもって対応してくれていると感じている生徒の割合	60%	67.9%	79.1%	73.5%	122.5	A			
						60%	-2.4	+16.6	+7.1	110.7	A			
環境衛生及び環境美化意識・態度の育成			<ul style="list-style-type: none"> 平素の清掃・大掃除の指導 ごみの持ち帰り指導 ごみ箱担当の当番制導入 	平素の清掃や大掃除に取り組み、ごみの持ち帰りやごみ箱当番を守っている生徒の割合	70%	90.1%	89.6%	89.8%	128.3	A				
					70%	+7.5	+0.0	+3.7	123.0	A				
地域と連携し、地域に開かれた学校づくりの推進	地域との連携及び地域貢献	学校施設の開放と地域の人々との交流	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の地域開放 地域との交流 	図書研修・総務	地域の人の月平均図書館利用数	10人	10.3人	10.3人	103.3	A	<p>昨年度の利用実績に基づいた目標値を達成することができた。固定した利用者の方は、継続して来館してくださっている。今後も地域の方の利用促進を図りたい。</p> <p>行事や施設開放の回数はかなり多くなっているが、それぞれの行事への参加者数は多いとは言えない。学校主催行事の広報に努め、来校者数を増やしていきたい。</p>	A	<p>・地域との交流等について、内容を示すことができないだろうか。</p>	
						20人	1.3	+1.3	45.0	C				
					地域交流活動の年間実施回数	40回	55回	55回	137.5	A				
						40回	+11.0	+11.0	110.0	A				